

第 4 0 回 人 口 問 題 審 議 会 総 会 次 第

昭和 5 7 年 1 月 1 4 日 (木)

1 4 時 ～ 1 6 時

於 厚生省特別会議室 (本館 3 階)

1 開 会

2 厚生大臣の挨拶

森下

3 議 題

(1) 人口に関する国際会議の概況について

(2) 日本の将来人口新推計について

(3) そ の 他

4 閉 会

第40回人口問題審議会総会配付資料

- 1 人口に関する国際会議の概況について
- 2 日本の将来人口新推計について

1

人口に関する国際会議の 概況について

Ⅰ 国連国際人口会議（世界人口会議に替わるもの）

1981年11月国連において以下のとおり決定された。

- 1 時 期 1984年
- 2 場 所 未 定
- 3 会議テーマ 未 定
- 4 準備委員会 1983年 国連人口委員会
- 5 事務局体制 会議事務局長 UNFPA事務局長
事務局次長 国連人口部長
- 6 専門家会議 本会議の前に下記のとおり4つの専門家会議を開催する。
 - ① 人口分布と開発戦略 1982年
 - ② 家族及び出生力関連要因 1982年
 - ③ 死 亡 1983年
 - ④ 人口・資源・環境・開発 1983年
- 7 そ の 他 第39回国連総会（1984年）に会議結果を報告する。

Ⅱ ESCAP第3回アジア太平洋人口会議

第2回準備委員会（1981年8月25日～28日、バンコックESCAP本部で開催）で会議日程等が決定された。

- 1 時 期 1982年9月20日～29日
- 2 場 所 スリランカのゴロンボ
- 3 会議テーマ メイン・テーマを「人口及び関連開発問題への総合的取組み」とし、討議事項は
 - ① 人口問題の概観
 - ② 人口及び開発に関する総合的施策の策定及び実施
 - ③ 都市及び都市の成長
 - ④ 地理的移動
 - ⑤ 家族計画、家族福祉及び家族保健事業における総合化戦略の評価等10項目とする。
- 4 本会議の参加レベル 従来と同様に一般政府関係者及び専門家
- 5 その他 1981年10月に各国政府あて開催通知が送付された。

日本の将来人口新推計について

1 推計の前提

① 生存率

最近の死亡率低下傾向を延長した結果に基づき、将来の生命表を作成したうえ将来の生存率を計算した。将来の生命表の示す平均寿命は、昭和100(2,025)年に男75.07年、女80.41年となり、それ以降の年次については不変とした。

② 出生率

出生率は、昭和48年に合計特殊出生率でみて2.14であつたものが、49年以降毎年低下をつづけ、55年に1.74となつたが、60年に1.68まで低下したのち、反転し、65年に1.74、75年に1.85ときわめて緩やかに上昇し、100年には人口の置き換え水準の2.09まで回復するものと仮定した。

2 推計結果

推計の結果、わが国の人口は、昭和55年に1億1,692万人であつたものが、増加をつづけ、65年に1億2,283万人、75年に1億2,812万人、そして83年に1億3,036万人のピークに達する。それ以後減少を始め、およそ60年間にわたり減少したのち、昭和150年に1億1,840万人に達し減少を止め、静止人口となる。

年齢構成は次第に高齢化する。昭和55年に65歳以上人口の割合は9.0%であつたものが、75年に15.6%、100年に21.3%となる。昭和95年には21.8%と最初のピークに到達し、一旦低下した後再び上昇して昭和118年に22.2%と次のピークとなる。以降、出生率の回復による年少人口の増加、過去の出生減少による老年人口の減少により高齢化はややゆるみ昭和150年ごろには19~20%に安定する。

3 新旧将来人口推計の比較（中位推計値）

事 項	旧推計（ 5 1 年 1 1 月 ）	新推計（ 5 6 年 1 1 月 ）
1 推計期間	昭和 5 1 ～ 1 2 5 年 （ 7 5 年間 ）	昭和 5 6 ～ 1 5 5 年 （ 1 0 0 年間 ）
2 使用データ		
(1) 基礎人口	昭和 5 0 年 1 0 月 1 日現在 国勢調査 1 % 抽出結果	昭和 5 5 年 1 0 月 1 日現在 国勢調査 1 % 抽出結果
(2) 平均寿命	男 7 3 . 5 2 女 7 8 . 7 8 （ 昭和 6 0 年以降 ）	男 7 5 . 0 7 女 8 0 . 4 1 （ 昭和 1 0 0 年以降 ）
(3) 合計特殊出生率	2 . 1 0 （ 昭和 6 2 年以降 ）	昭和 6 0 年に 1 . 6 8 まで低下し た後徐々に回復し、昭和 1 0 0 年 には 2 . 0 9 （ 人口置換水準 ）に 達する
3 総人口のピーク	1 4 0 , 0 1 3 千人 （ 昭和 1 2 5 年 ）	1 3 0 , 3 5 9 千人 （ 昭和 8 3 年 ）
4 老年人口のピーク	2 6 , 1 5 8 千人 （ 昭和 9 5 年 ）	2 8 , 0 1 9 千人 （ 昭和 9 3 年 ）
5 老年人口比率		
(1) 昭和 5 5 → 7 5 年	9 . 0 % → 1 4 . 3 %	9 . 0 % → 1 5 . 6 %
(2) ピーク	1 8 . 8 % （ 昭和 9 5 年 ） { 1 8 . 2 % （ 昭和 1 2 0 年頃 ）	2 1 . 8 % （ 昭和 9 5 年 ） { 2 2 . 2 % （ 昭和 1 1 8 年 ）
6 静止人口	1 億 4 , 0 0 0 万人 （ 昭和 1 2 0 年頃から ）	1 億 1 , 8 0 0 万人 （ 昭和 1 5 0 年頃から ）

2

日本の将来人口新推計について

(昭和 56 年 11 月)

厚生省人口問題研究所

日本の将来人口新推計について

昭和55年10月1日実施の国勢調査による男女年齢別人口（1％抽出集計結果）が発表され、将来人口推計の新しい基準人口が得られたこと、および近年出生率が予想外に低下し、その影響が将来人口に及ぶと考えられることから、このたび改めて全国将来人口を推計した。推計の方法ならびに結果の概要は以下に述べるとおりである。

I 推 計 方 法

推計は従来と同様、すでに生まれた人口については基準人口（男女年齢別）から出発して将来年次の生存数を計算し、また、新たに生まれる人口については将来の出生数（男女別）を計算してその生存数を求めるというコウホート要因法によった。国際人口移動は、我が国の場合、その数がきわめて少なく、したがって人口増減に及ぼす影響を無視することができるので、従来通り考慮しなかった。

1. 基 準 人 口

総理府統計局が昭和55年10月1日に実施した国勢調査による男女年齢各歳別総人口（1％抽出集計）を基準人口とした。なお、年齢不詳は按分比例により、各年齢に配分した。

2. 生 存 率 の 仮 定

最近の我が国の平均寿命は、世界の最高水準に到達しており、これまでのように先進諸国の年齢別死亡率の最低値を参考とする最良生命表方式で将来の平均寿命を仮定することはできなくなった。したがって、今回は、過去のわが国の男女年齢別死亡率の低下傾向に曲線を当てはめ、これを延長推計することによって将来の生命表を作成し、そこから各年次の生存率を求めた。求められた男女別平均寿命は表1と図1に示されているとおりであるが、昭和54年度に男子73.14年、女子78.50年であった平均寿命は、昭和100年（西暦2025年）に男子75.07年、女子80.41年に達することになる。昭和100年以降は一定になるものと仮定した。なお、後述するように出生率の仮定は3本であるのに対し、生存率の仮定は1本だけであるが、これは将来の生存率の変化の可能性が、出生率のそれと比較して小さいことによる。

3. 出 生 率 の 仮 定

将来の出生率の推計は、原則としてコウホート（同時出生集団）別に仮定を立てるコウホート出生率法を用いた。すなわち、コウホート別夫婦完結出生児数（生涯出生児数）に関して次に示すような三つの仮定（中位、高位、低位）を設け、それぞれの仮定に対応する各コウホートの女子年齢別出生率を、生涯未婚率に将来大きな変化がないものとして計算し、次にこれを基にして各年次の女子年齢別出生率と合計特殊出生率*を求めた。

中 位 推 計

昭和48年の合計特殊出生率は2.14であったが、表2と図2の実績値として示されるように、昭和49年以降毎年低下の一途をたどり、昭和55年には1.74と人口の置き換え水準をかなり下回る低い数字となっている。昭和56年の出生動向は4月までの統計を見る

* ある年次の女子年齢別出生率の合計。もしある年次の女子年齢別出生率が将来一定と仮定すると、この指標は、女子が一生かかって生みあげる平均子供数を意味する。

限り前年同時期の数字に比較してさらに低下しており、昭和55年5月から56年4月までの12カ月の期間に対する合計特殊出生率は1.73まで低下し、反騰の気配はみられない。それ以降についても同様の傾向を想定すると、我が国の合計特殊出生率は、昭和56年（1月～12月）には1.72前後の水準に低下することが見込まれる。このような低下傾向は、さらに昭和60年まで続くものと仮定し、女子年齢別出生率の過去の下降傾向を各歳ごとに延長して合計特殊出生率を求めると、昭和60年には1.7を下回る水準(1.68)にまで低下することになる。

近年におけるこのような合計特殊出生率の低下にもかかわらず、人口問題研究所の「第7次出産力調査」など、最近の出産力に関する一連の調査によれば、夫婦の完結出生児数と予定子供数（現存子供数＋追加予定子供数）は合計特殊出生率で示された水準よりも高い2.2前後の水準で安定しており、以下に述べるような要因も加わって、我が国の合計特殊出生率は、昭和60年前後から回復し始めるものと予想される。

(1) 近年の合計特殊出生率の低下をもたらした要因の一つとして、平均初婚年齢の上昇、すなわち晩婚化が挙げられるが、我が国においてそれと密接に関連しているとみられる女子の高学歴化が最近頭打ちの傾向を示し、晩婚化はほぼ限界に達したと考えられる。これに加えて、最近注目される現象の一つは、晩婚化の一方で、結婚から第1児出生まで、第1児出生から第2児出生まで、そして第2児出生から第3児出生までの出生間隔に短縮化の傾向がみられることである。この晩婚化の頭打ち傾向と出生間隔の短縮化が将来出産年齢に達する女子コウホートについても持続すると仮定するならば、女子の20歳代の半ばから終りにかけて一括出生がより集中的に行われるパターンへの変化が進む。その結果、これまでのように、結婚・出産の遅れのため予定した子供を生めないままに終るという事態も徐々に回避され、合計特殊出生率が上昇に転ずることが予想される。

(2) 昭和40年代に生まれた比較的大型のコウホートが昭和60年前後から結婚適齢期に達し、出産活動に入り始めるが、その結婚パターンは他のコウホートのそれと同じであっても、コウホートの規模が大きく、かつ同じ年次で結婚する先行コウホートの女子よりも若いために、平均初婚年齢は低下することになる。この結果、若い生み盛りの年齢層における出生率が上昇し、したがって、合計特殊出生率は上昇に転ずるものと考えられる。

(3) 昭和56年度の毎日新聞社「全国家族計画世論調査」は、2年前の調査とくらべ夫婦の理想子供数が増加し、子供を3人希望する夫婦数の割合が2人を希望する割合と伯仲して来たことを報じているが、この理想子供数増加の徴候は今後の持続的な出生率低下を否定する根拠となろう。

(4) 1965年以降、欧米諸国において出生率が大幅に低下し、その多くが人口の置き換え水準を割る低い水準にあるが、アメリカ、イギリス、西ドイツ、フランス、スウェーデン等の先進諸国において、最近合計特殊出生率が僅かながら反騰し始めたことが注目される。欧米諸国で出生率が反騰したからといって、直ちに日本の出生率も反騰するということにはならないが、婚姻率が減少し、離婚率あるいは同棲の比率が高い等、出生の場である結婚と家族形成にまつわる条件が日本よりも不利とみられる欧米諸国において、なおかつ出生率が反騰するという現象は、下がり過ぎた出生率がようやく底入れされたことを意味し、欧米諸国と同じ水準あるいはそれ以下にまで低下した我が国の出生率の将来を占う参考となる。

以上の考察によって、昭和61年以降出生力は回復するものと見込まれるが、それは、時間の経過とともに出生力の低いコウホートが出生行動を終え、代って出生力の高いコウホートが出生行動の過程に入ってくるという世代交代が徐々に進行するものと考えられるので、全体としての出生率の回復はゆるやかなものにならざるを得ない。

以上の検討結果に基づき、昭和61年以降の出生率の仮定は、次のように行われた。すなわち、昭和61年に15歳になる女子コウホートの夫婦完結出生児数を2.00人とし、以後、後続のコウホート毎に出生力が順次微増して行くものと仮定した。その場合、昭和81年（西暦2006年）に15歳になる女子コウホートから、はじめて夫婦完結出生力が2.30人と人口の置き換え水準に見合うレベルに達するが、それ以降は一定で推移するものと仮定した。

わが国の夫婦完結出生児数が究極的に2.30人、したがって未婚を含む全女子の完結出生児数が人口の置き換え水準に等しい2.09人、とする理由は次のとおりである。

(1) 近年各種の調査によれば、予定子供数は2.2人前後で安定した傾向を示していたが、ごく最近の調査では、予定子供数が2.3人とやや上昇し、しかも若い年齢の妻における上昇が顕著となっており、20歳代の妻の場合2.3人を超えている。このことか

らみて、将来、夫婦の出生力水準が人口の置き換え水準に見合う2.3人まで回復する可能性が十分あると考えられる。

(2) 先進国の究極的出生力水準を人口の置き換え水準とする仮定は、国連が過去5回の世界人口推計中位値として採用してきた基礎的枠組であり、それは、出生率が過去相当期間人口の置き換え水準以下に停滞していても、やがて必ず置き換え水準に回復したという歴史的事実に基づいている。今回の我が国の人口推計においても、この基礎的枠組を採用した。

中位推計において、以上仮定された夫婦出生力に基づき、毎年の年齢別出生率および合計特殊出生率を計算した。表2と図2に示されるように、昭和61年以降合計特殊出生率は上昇し、昭和75年（西暦2000年）に1.85、昭和100年（西暦2025年）には人口の置き換え水準2.09になる。しかしながら、前にも触れたように、回復のテンポはかなりゆるやかであることに留意する必要がある。

高 位 推 計

高位推計に関しては、昭和61年に15歳になる女子コウホートの夫婦完結出生児数を2.20人と設定したが、後続のコウホート毎に順次出生力が微増して行き、昭和81年（西暦2006年）に15歳になる女子コウホートから夫婦完結出生児数は2.50人となり、以後一定で推移するものと仮定した。これらのコウホート出生率に見合う毎年の合計特殊出生率は表2と図2に示されているとおりであるが、昭和75年（西暦2000年）には2.03、昭和100年（西暦2025年）には2.27となる。昭和81年（西暦2006年）起点の夫婦出生力2.50人という数字は、最近の出産力に関する一連の調査における理想子供数の水準に見合っている。

低 位 推 計

低位推計に関しては、合計特殊出生率が昭和63年に1.63の水準にまで低下し、以後僅かながら上昇すると仮定した。この1.63という数字は、昭和54年に出生率が全国平均よりもかなり低い関東と関西の6都府県の合計特殊出生率を加重平均したものを参考にしている。それ以降については、昭和63年に15歳になる女子コウホートの夫婦完結出生児数を1.85人とし、後続のコウホート毎に順次出生力が微増して行き、昭和81年（西暦2006年）に15歳になる女子コウホートの夫婦完結出生児数を1.90人になるものと仮定した。以上の仮定に基づき、毎年の合計特殊出生率を計算したが、表2と図2に示すように、昭和75年（西暦2000年）に1.70、昭和100年（西暦2025年）に1.73へと、微少ながら回復が見込まれている。

4. 出 生 性 比

出生児数を男児出生数と女児出生数とに分けるために使用する出生性比は、最近の実績に基づき、女子100に対し男子106とし、将来一定と仮定した。

Ⅱ 推 計 結 果

人口推計は、昭和55年から昭和155年（西暦2080年）までの100年間について各年毎に行い、10月1日現在の総人口、男女年齢各歳別および5歳階級別人口等について計算している。

今回の報告において、表3と図3以降の図表は、すべてⅠの「推計方法」の仮定に基づいた人口推計の結果を示している。まず表3、4、5、6は、それぞれ今回推計された中位、高位、低位、および昭和55年の女子年齢別出生率一定の仮定に基づく総人口および主要人口指標の要約表である。人口動態の指標は暦年の1年間に対して計算された。なお、参考のために、前回昭和51年度中位推計の結果（表3B）を掲げた。図3は、各仮定によって推計された総人口の推移をグラフで示したものである。

図4と表7以降の図と表は、いずれも中位推計による結果だけを示している。図4は、普通出生率・死亡率および自然増加率の推移をグラフで表した。表7は、男女年齢5歳階級別人口とその構成比率の変化を、昭和75年（西暦2000年）までは5年おきに、以後25年おきに表示している。表8は、年齢構成の変化を総合的に表す従属人口指数（15歳未満の年少人口と65歳以上の老年人口の和の15～64歳の生産年齢人口に対する比率）を掲げている。図5と6は、昭和55年と75年（西暦2000年）、昭和55年と100年（西暦2025年）との間の人口構成の変化を、人口ピラミッドによって明らかにしたものである。

最後に二つの参考表によって、主要諸外国の年齢3区分による構成比率と従属人口指数を、最近の年次と西暦2025年の推計年次についてそれぞれ示し、我が国との比較を行っている。

以下、総人口、年齢構成、および人口動態率の将来の推移について、いくつかの要点を簡単に紹介する。

1. 総人口

我が国の昭和55年人口は、昭和55年10月1日の国勢調査1%集計によれば、1億1,692万であったが、今回の中位推計では、合計特殊出生率が昭和49年から昭和100年くらいまで継続的に2.09の置き換え水準を下回ると仮定されているにもかかわらず、総人口は昭和65年に1億2,283万、昭和75年（西暦2000年）に1億2,812万へと増加して行くことがまず注目される。しかし、その後は、昭和83年（西暦2008年）で1億3,036万のピークに達し、以後人口減少が60年間あまり続く。昭和150年（西暦2075年）になってようやく底入れが起り、静止人口の局面が始まる（表3と図3）。

前回と比較した場合の今回の推計の特徴の一つは、前回の中位推計が昭和105年（西暦2030年）あたりから静止人口の状態に入るに対し、今回の中位推計によると昭和80年代の後半に総人口の減少が始まり、静止人口の状態への回復は21世紀の後半、それも終り頃にならないと見られないことである。

高位推計によれば、昭和65年の人口は1億2,372万、昭和75年（西暦2000年）には1億3,047万と増加が続くが、昭和89年（西暦2014年）の1億3,445万をピークとして、総人口は数年間だけ僅かながら減少する。しかし、その後昭和94年（西暦2019年）になるとふたたび増加傾向に転じ、昭和120年（西暦2045年）頃までは増加が緩慢であるが、それ以降増加の速度を早め、昭和155年（西暦2080年）には1億4,812万に達する（表4と図3）。

低位推計にあっても、総人口は昭和65年に1億2,242万、75年（西暦2000年）に1億2,657万と増加するが、昭和81年（西暦2006年）の1億2,772万をピークとして以後減少し始め、次第に減少の速度を早める。昭和125年（西暦2050年）に1億2,121万、昭和155年（西暦2080年）には8,290万までに減少する（図3と表5）。

2. 年齢構成

今回の推計においてもっとも注目されるべき特徴の一つは、三つの仮定値、中位、高位、低位推計値を通じて、人口の高齢化が今後当分の間急速に進行することであろう。高齢化の速度は前回推計よりも著しい。以下、中位推計について概観する。

前回の中位推計において、65歳以上の老年人口の比率の最大値は昭和95年（西暦2020年）の18.8%であったが、今回の中位推計によれば、昭和75年（西暦2000年）に15.6%、昭和85年（西暦2010年）に18.8%となった後、昭和95年（西暦2020年）には21.8%と最初のピークに到達する。以後しばらくこの比率は下降するが、ふたたび上昇に転じ、昭和118年（西暦2043年）に22.2%と次のピークに到達する。以後出生率の回復による15歳未満の年少人口の増加、過去の出生減少に由来する老年人口の減少によって高齢化に歯どめがかかり、昭和150年（西暦2075年）頃には19~20%に安定する（表3）。

次に実数についてみると、昭和55年1,058万であった老年人口は、以後急速に増加し、昭和93年（西暦2018年）に2,802万と最大値に達する。このように、昭和55年から93年までの間に、老年人口は2.6倍以上に増加すると予測される。その後老年人口はしだいに減少し、昭和155年（西暦2080年）には2,256万になる。昭和155年以後は、老年人口の実数・比率ともに安定化の道をたどる。

他方、15歳未満の年少人口の比率は、昭和55年の23.6%から昭和71年（西暦1996年）の17.1%にまで低下し、それ以降後述する普通出生率の波動傾向（図4）を反映して16~19%台の範囲で上下運動をくり返し、昭和146年（西暦2071年）以降は19%を少し下回る水準で安定する。

老年人口と年少人口は、これまで一貫して年少人口の割合の方が高かったが、昭和84年（西暦2009年）から両者の比率は逆転することになる（前者18.7%、後者18.4%）。昭和134年（西暦2059年）から昭和140年（西暦2065年）までは、15歳未満人口の比率が老年人口のそれをわずかに上回るが、昭和141年（西暦2066年）以降になるとふたたび比率は逆転し、以後昭和155年（西暦2080年）まで老年人口が年少人口を下回ることはない。

他方、15~64歳の生産年齢人口は、昭和55年67.4%であったが昭和65年には70.0%と今回の推計期間を通じて最大になる。しか

しその後減少に転じ、昭和100年（西暦2025年）61.5%、昭和115年（西暦2040年）59.3%にまで低下するが、その後ふたたび上昇し、61%台の水準で安定する。

人口全体の年齢構成の変化を一目で示すものが人口ピラミッドである（図5と6）。昭和55年のピラミッドは、上部がとがった釣鐘型であったが、昭和75年になると壺型、そして昭和100年になると矩形に近い型へと変化して行く。

従属人口指数（年少人口と老年人口の和の生産年齢人口に対する比率）は、大まかに言って、一国の経済活動を担当する年齢の人口が、それ以外の年少人口と老年人口を扶養するために支えなければならない負担の重みを表わす。この指数をみると、昭和55年では48.4%であったが、一旦は下降傾向を示し、昭和65年に最低値の42.8%に達する（表8）。しかし、その後、老年人口指数（老年人口の生産年齢人口に対する比率）の急上昇を反映して増加に転じ、昭和115年には68.6%まで上昇する。それ以降はふたたびゆるやかな減少に転じ、昭和150年代（西暦2075年から2080年にかけて）には61%台になる。

我が国の老年人口の比率が、昭和95年（西暦2020年）に21.8%と最初のピークに到達する見込みであることはすでに述べた。昭和100年の比率は、21.3%とやや減少するが、しかしこの数字は同じ年次（西暦2025年）に対する諸外国の国連推計の結果と比較しても、世界最大級の比率である（参考表2）。わずかにルクセンブルグ（22.5%）とスイス（22.0%）の二国のみが、我が国より大きな割合を示すにすぎない。老年化指数、すなわち65歳以上人口の15歳未満人口に対する比率をみても、日本の123.5より大きな値を持つ国は、ルクセンブルグ、スイス、イタリア、スウェーデン等の限られた国だけである（参考表2）。

3. 人口動態率

中位推計においては、普通出生率は、昭和55年から昭和155年（西暦2080年）まで25年から30年の間隔で、10‰から14‰の幅で振動する（図4参照）。他方、普通死亡率は、人口高齢化の影響を受け、平均寿命の伸長にもかかわらず、昭和110年（西暦2035年）頃まで着実に上昇し、ついで昭和130年（西暦2055年）頃まで横ばいを続ける。しかしその後ゆるやかな下降を示し、安定化への道をたどる。この結果、自然増加率は昭和85年（西暦2010年）あたりからマイナスに転ずる。自然増加率がふたたびプラスに変わるのは、昭和150年（西暦2075年）を過ぎてからになる。

表 1 仮定された平均寿命（出生時の平均余命）の推移

	年次	平均寿命（年）			平均寿命の伸び（年）	
		男	女	男女差	男	女
実績値	昭和25年（1950）	57.91	61.13	－3.22	5.72	6.63
	30（1955）	63.63	67.76	－4.13	1.70	2.39
	35（1960）	65.33	70.15	－4.82	2.76	3.15
	40（1965）	68.09	73.30	－5.21	1.67	1.70
	45（1970）	69.76	75.00	－5.24	1.99	1.98
	50（1975）	71.75	76.98	－5.23	1.39	1.52
	54（1979）	73.14	78.50	－5.36		
推計値	55（1980）	73.55	78.97	－5.42	0.82	0.82
	60（1985）	74.37	79.79	－5.42	0.37	0.35
	65（1990）	74.74	80.14	－5.40	0.18	0.16
	70（1995）	74.92	80.30	－5.38	0.08	0.06
	75（2000）	75.00	80.36	－5.36	0.04	0.03
	80（2005）	75.04	80.39	－5.35	0.02	0.02
	85（2010）	75.06	80.41	－5.35	0.01	0.00
	90（2015）	75.07	80.41	－5.34	0.00	0.00
	95（2020）	75.07	80.41	－5.34	0.00	0.00
	100（2025）	75.07	80.41	－5.34		

昭和100年以降は一定。

0.00

図 1 仮定された平均寿命（出生時の平均余命）

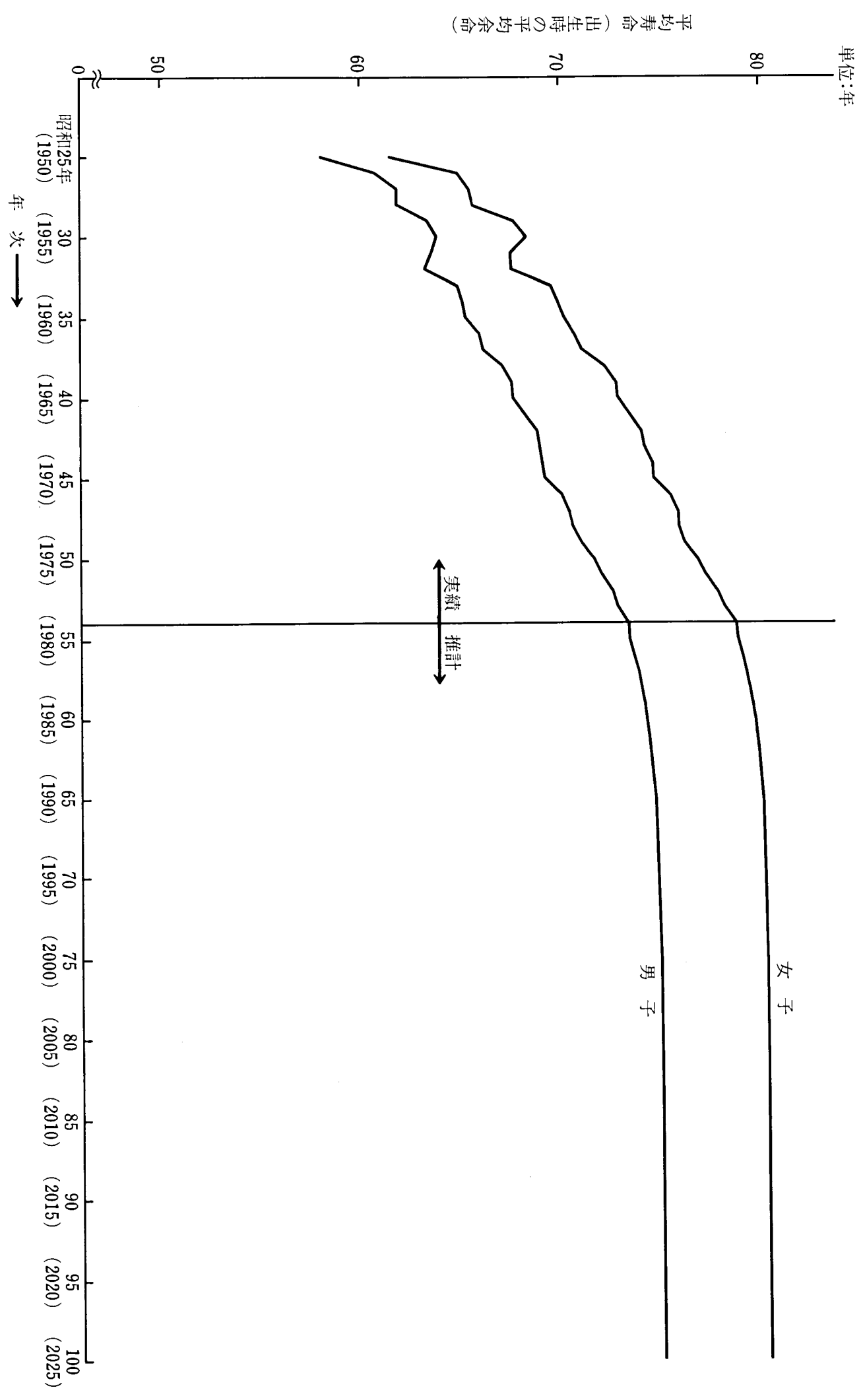


表 2 仮定された三種の合計特殊出生率の推移

年次	実績値	年次	推計値		
			中位	高位	低位
昭和25年 (1950)	3.65028	昭和56年 (1981)	1.72325	1.75885	1.69720
30 (1955)	2.36936	57 (1982)	1.70914	1.77378	1.68538
35 (1960)	2.00384	58 (1983)	1.69816	1.78862	1.67464
40 (1965)	2.13925	59 (1984)	1.68949	1.80354	1.66475
45 (1970)	2.13492	60 (1985)	1.68314	1.81838	1.65561
46 (1971)	2.15732	61 (1986)	1.69459	1.83332	1.64705
47 (1972)	2.14219	62 (1987)	1.70602	1.84817	1.63904
48 (1973)	2.14039	63 (1988)	1.71747	1.86309	1.63148
49 (1974)	2.04896	64 (1989)	1.72896	1.87796	1.63723
50 (1975)	1.90563	65 (1990)	1.74053	1.89287	1.64282
51 (1976)	1.85191	66 (1991)	1.75223	1.90775	1.64830
52 (1977)	1.80089	67 (1992)	1.76455	1.92258	1.65373
53 (1978)	1.79175	68 (1993)	1.77683	1.93720	1.65903
54 (1979)	1.76935	69 (1994)	1.78855	1.95139	1.66435
55 (1980)	1.74398	70 (1995)	1.79944	1.96494	1.66969
		75 (2000)	1.85124	2.02714	1.69747
		80 (2005)	1.91099	2.09215	1.71587
		85 (2010)	1.97777	2.15961	1.72292
		90 (2015)	2.04173	2.22350	1.72515
		95 (2020)	2.07854	2.26025	1.72584
		100 (2025)	2.08787	2.26961	1.72606
		105 (2030)	2.08940	2.27112	1.72609
		110 (2035)	2.08954	2.27126	1.72609
		115 (2040)	2.08954	2.27127	1.72609
		120 (2045)	2.08954	2.27127	1.72609
		125 (2050)	2.08954	2.27127	1.72609
		130 (2055)	2.08954	2.27127	1.72609
		135 (2060)	2.08954	2.27127	1.72609
		140 (2065)	2.08954	2.27127	1.72609
		145 (2070)	2.08954	2.27127	1.72609
		150 (2075)	2.08954	2.27127	1.72609
		155 (2080)	2.08954	2.27127	1.72609

図 2 仮定された三種の合計特殊出生率の推移と前回の仮定値

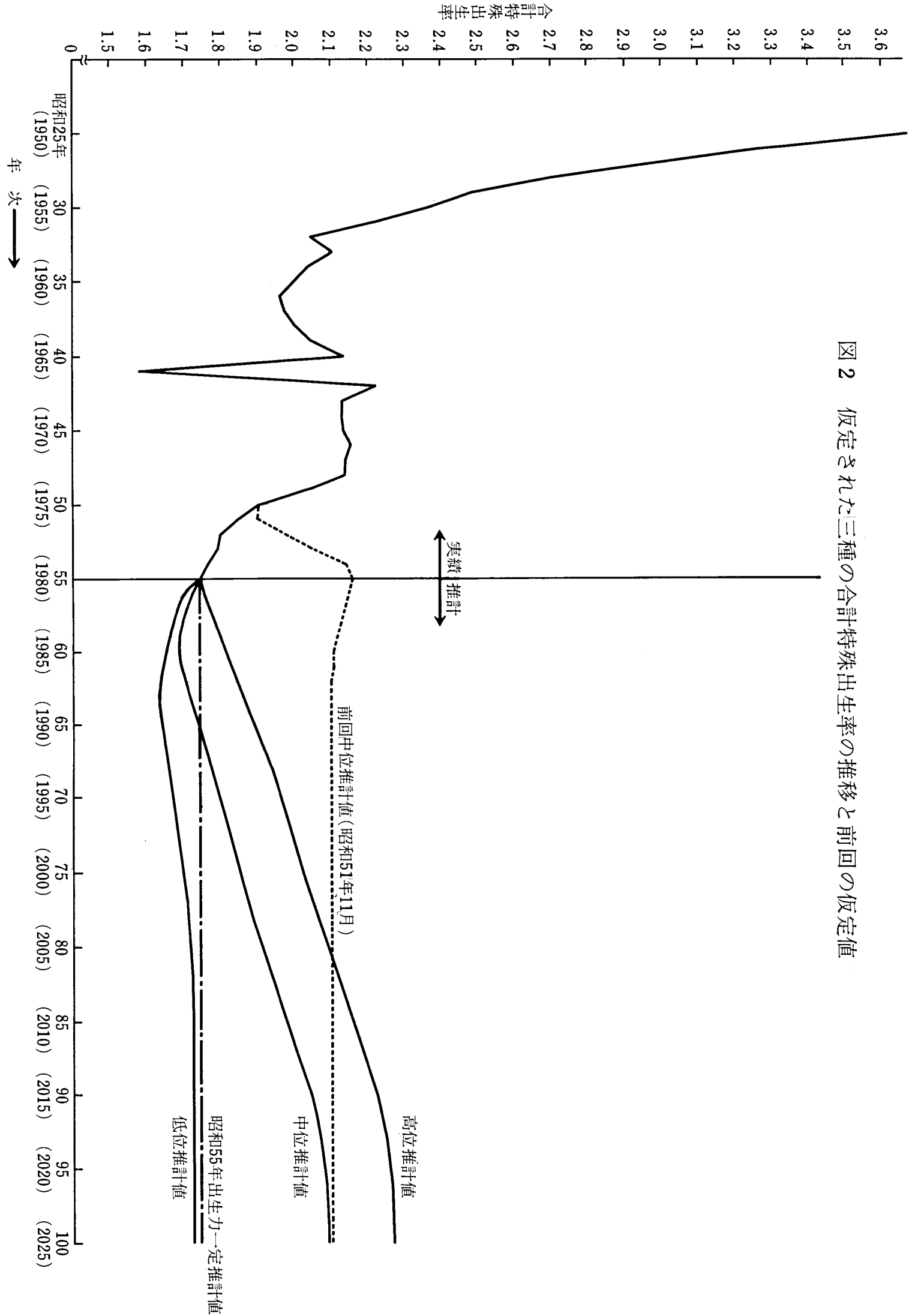


表 3 昭和56年新推計と前回昭和51年11月推計の比較—中位推計値

A. 新推計：総人口および主要人口指標の推移

実数の単位 1,000人

年次	総人口	年齢3区分別人口（割合％）			普通人口動態率（％）*			出生数
		0～14歳	15～64歳	65歳以上	C B R	C D R	N I R	
昭和25年（1950）	84,115	29,786（35.41）	50,168（59.64）	4,155（4.94）	28.10	10.88	17.22	2,338
30（1955）	90,077	30,123（33.44）	55,167（61.24）	4,786（5.31）	19.39	7.77	11.62	1,731
35（1960）	94,302	28,434（30.15）	60,469（64.12）	5,398（5.72）	17.19	7.56	9.63	1,606
40（1965）	99,209	25,529（25.73）	67,444（67.98）	6,236（6.28）	18.56	7.13	11.43	1,824
45（1970）	104,665	25,153（24.03）	72,119（68.90）	7,393（7.06）	18.76	6.91	11.85	1,934
実績 50（1975）	111,940	27,221（24.32）	75,807（67.72）	8,865（7.92）	17.09	6.31	10.78	1,901
55（1980）	116,916	27,547（23.56）	78,791（67.39）	10,578（9.05）	13.57	6.22	7.35	1,577
推計 56（1981）	117,720	27,625（23.47）	79,177（67.26）	10,917（9.27）	12.94	6.28	6.66	1,523
57（1982）	118,451	27,248（23.00）	79,976（67.52）	11,227（9.48）	12.40	6.37	6.03	1,468
58（1983）	119,120	26,805（22.50）	80,792（67.82）	11,523（9.67）	11.95	6.47	5.49	1,424
59（1984）	119,734	26,296（21.96）	81,656（68.20）	11,782（9.84）	11.60	6.58	5.01	1,389
60（1985）	120,301	25,737（21.39）	82,366（68.47）	12,198（10.14）	11.34	6.71	4.62	1,364
61（1986）	120,838	25,136（20.80）	83,149（68.81）	12,554（10.39）	11.25	6.86	4.39	1,359
62（1987）	121,354	24,429（20.13）	83,999（69.22）	12,927（10.65）	11.22	7.01	4.21	1,361
63（1988）	121,855	23,737（19.48）	84,794（69.59）	13,324（10.93）	11.24	7.16	4.09	1,370
64（1989）	122,348	23,057（18.85）	85,537（69.91）	13,753（11.24）	11.32	7.31	4.01	1,385
65（1990）	122,834	22,512（18.33）	86,032（70.04）	14,290（11.63）	11.42	7.47	3.95	1,403
66（1991）	123,323	22,091（17.91）	86,368（70.03）	14,864（12.05）	11.61	7.64	3.97	1,432
67（1992）	123,818	21,768（17.58）	86,634（69.97）	15,416（12.45）	11.83	7.83	4.01	1,465
68（1993）	124,325	21,534（17.32）	86,818（69.83）	15,973（12.85）	12.11	8.01	4.10	1,505
69（1994）	124,846	21,403（17.14）	86,893（69.60）	16,550（13.26）	12.40	8.19	4.21	1,548
70（1995）	125,383	21,405（17.07）	86,897（69.31）	17,082（13.62）	12.69	8.38	4.31	1,591
71（1996）	125,933	21,490（17.06）	86,778（68.91）	17,666（14.03）	12.96	8.57	4.39	1,631
72（1997）	126,492	21,668（17.13）	86,574（68.44）	18,250（14.43）	13.18	8.75	4.42	1,667
73（1998）	127,050	21,919（17.25）	86,301（67.93）	18,830（14.82）	13.32	8.94	4.38	1,693
74（1999）	127,596	22,224（17.42）	86,001（67.40）	19,371（15.18）	13.38	9.12	4.25	1,707
75（2000）	128,119	22,561（17.61）	85,615（66.82）	19,943（15.57）	13.34	9.31	4.03	1,709
80（2005）	130,008	23,941（18.42）	83,839（64.49）	22,228（17.10）	12.16	10.34	1.82	1,581
85（2010）	130,276	23,858（18.31）	81,940（62.90）	24,478（18.79）	10.86	11.51	-0.65	1,414
90（2015）	129,332	22,427（17.34）	79,593（61.54）	27,311（21.12）	10.75	12.62	-1.87	1,390
95（2020）	128,115	21,419（16.72）	78,747（61.47）	27,950（21.82）	11.78	13.54	-1.76	1,509
100（2025）	127,184	21,929（17.24）	78,176（61.47）	27,079（21.29）	12.86	14.13	-1.27	1,635
105（2030）	126,297	23,182（18.36）	76,763（60.78）	26,351（20.86）	12.82	14.41	-1.59	1,619
110（2035）	124,945	23,711（18.98）	75,036（60.06）	26,198（20.97）	12.00	14.56	-2.57	1,499
115（2040）	123,274	23,037（18.69）	73,119（59.31）	27,118（22.00）	11.56	14.24	-2.68	1,425
120（2045）	121,800	22,052（18.11）	72,845（59.81）	26,902（22.09）	12.06	14.19	-2.12	1,470
125（2050）	120,790	21,909（18.14）	73,375（60.75）	25,506（21.12）	13.01	14.31	-1.31	1,571
130（2055）	120,172	22,662（18.86）	73,653（61.29）	23,856（19.85）	13.40	14.31	-0.90	1,611
135（2060）	119,611	23,368（19.54）	73,318（61.30）	22,924（19.17）	12.97	13.94	-0.97	1,551
140（2065）	119,029	23,264（19.54）	72,651（61.04）	23,114（19.42）	12.38	13.32	-0.94	1,473
145（2070）	118,568	22,571（19.04）	72,497（61.14）	23,500（19.82）	12.36	12.95	-0.60	1,465
150（2075）	118,395	22,141（18.70）	73,000（61.66）	23,253（19.64）	12.90	12.95	-0.05	1,528
155（2080）	118,495	22,427（18.93）	73,508（62.03）	22,560（19.04）	...	...	...	...

* C B R：普通出生率（人口千人当たりの出生率） C D R：普通死亡率（人口千人当たりの死亡率）
N I R：自然増加率（C B R－C D R） 昭和50年以前の総人口には年齢不詳を含む。

表 3 昭和56年新推計と前回昭和51年11月推計の比較—中位推計値（つづき）

B. 前回推計：総人口および主要人口指標の推移

実数の単位 1,000人

年次	総人口	年齢3区分別人口（割合％）			普通人口動態率（‰）*			出生数
		0～14歳	15～64歳	65歳以上	CBR	CDR	NIR	
昭和55年（1980）	117,563	28,229（24.01）	78,898（67.11）	10,436（8.88）	16.24	6.74	9.50	1,910
56（1981）	118,629	28,608（24.12）	79,273（66.82）	10,747（9.06）	15.56	6.77	8.79	1,845
57（1982）	119,628	28,541（23.86）	80,049（66.92）	11,038（9.23）	14.98	6.80	8.18	1,792
58（1983）	120,571	28,440（23.59）	80,823（67.03）	11,308（9.38）	14.51	6.85	7.66	1,750
59（1984）	121,469	28,259（23.26）	81,684（67.25）	11,526（9.49）	14.15	6.89	7.26	1,719
60（1985）	122,333	28,014（22.90）	82,410（67.36）	11,909（9.74）	13.88	6.93	6.95	1,698
61（1986）	123,174	27,724（22.51）	83,210（67.56）	12,240（9.94）	13.72	7.09	6.63	1,690
62（1987）	123,981	27,364（22.07）	84,017（67.77）	12,601（10.16）	13.62	7.29	6.33	1,688
63（1988）	124,763	27,006（21.65）	84,775（67.95）	12,982（10.41）	13.58	7.49	6.09	1,695
64（1989）	125,526	26,673（21.25）	85,439（68.06）	13,414（10.69）	13.61	7.67	5.94	1,708
65（1990）	126,280	26,482（20.97）	85,889（68.01）	13,909（11.01）	13.70	7.86	5.84	1,730
66（1991）	127,031	26,366（20.76）	86,226（67.88）	14,439（11.37）	13.83	8.04	5.79	1,757
67（1992）	127,784	26,316（20.59）	86,535（67.72）	14,933（11.69）	14.01	8.23	5.78	1,790
68（1993）	128,541	26,247（20.42）	86,831（67.55）	15,463（12.03）	14.20	8.43	5.77	1,825
69（1994）	129,302	26,175（20.24）	87,145（67.40）	15,982（12.36）	14.39	8.61	5.78	1,860
70（1995）	130,065	26,148（20.10）	87,414（67.21）	16,503（12.69）	14.55	8.80	5.75	1,892
71（1996）	130,825	26,201（20.03）	87,600（66.96）	17,024（13.01）	14.66	8.97	5.69	1,918
72（1997）	131,574	26,327（20.01）	87,680（66.64）	17,567（13.35）	14.70	9.14	5.56	1,934
73（1998）	132,303	26,505（20.03）	87,702（66.29）	18,096（13.68）	14.67	9.31	5.36	1,941
74（1999）	133,006	26,719（20.09）	87,717（65.95）	18,569（13.96）	14.60	9.48	5.12	1,942
75（2000）	133,676	26,953（20.16）	87,662（65.58）	19,061（14.26）	14.50	9.65	4.85	1,938
80（2005）	136,473	27,990（20.51）	87,399（64.04）	21,084（15.45）	13.76	10.47	3.29	1,878
85（2010）	138,102	28,000（20.27）	87,006（63.00）	23,096（16.72）	12.85	11.39	1.46	1,775
90（2015）	138,724	27,135（19.56）	85,876（61.90）	25,713（18.54）	12.71	12.24	0.47	1,763
95（2020）	139,067	26,634（19.15）	86,275（62.40）	26,158（18.81）	13.32	12.83	0.49	1,852
100（2025）	139,491	26,996（19.35）	87,223（62.53）	25,272（18.12）	13.72	13.11	0.61	1,913
105（2030）	139,786	27,729（19.84）	87,510（62.60）	24,547（17.56）	13.51	13.26	0.25	1,889
110（2035）	139,748	27,937（19.99）	87,434（62.57）	24,377（17.44）	13.03	13.38	-0.35	1,821
115（2040）	139,528	27,481（19.70）	86,973（62.33）	25,074（17.97）	12.87	12.98	-0.11	1,796
120（2045）	139,635	27,042（19.37）	87,134（62.40）	25,458（18.23）	13.19	12.82	0.37	1,842
125（2050）	140,013	27,149（19.39）	87,519（62.51）	25,345（18.10）	13.52	12.95	0.57	1,893

* CBR：普通出生率（人口千人当たりの出生率） CDR：普通死亡率（人口千人当たりの死亡率）

NIR：自然増加率（CBR－CDR）

表 4 総人口および主要人口指標の推移—高位推計値

実数の単位 1,000人

年次	総人口	年齢3区分別人口（割合％）			普通人口動態率（‰）*			出生数
		0～14歳	15～64歳	65歳以上	CBR	CDR	NIR	
昭和25年（1950）	84,115	29,786（35.41）	50,168（59.64）	4,155（4.94）	28.10	10.88	17.22	2,338
30（1955）	90,077	30,123（33.44）	55,167（61.24）	4,786（5.31）	19.39	7.77	11.62	1,731
35（1960）	94,302	28,434（30.15）	60,469（64.12）	5,398（5.72）	17.19	7.56	9.63	1,606
40（1965）	99,209	25,529（25.73）	67,444（67.98）	6,236（6.28）	18.56	7.13	11.43	1,824
45（1970）	104,665	25,153（24.03）	72,119（68.90）	7,393（7.06）	18.76	6.91	11.85	1,934
実績 50（1975）	111,940	27,221（24.32）	75,807（67.72）	8,865（7.92）	17.09	6.31	10.78	1,901
55（1980）	116,916	27,547（23.56）	78,791（67.39）	10,578（9.05）	13.57	6.22	7.35	1,577
推計 56（1981）	117,741	27,647（23.48）	79,177（67.25）	10,917（9.27）	13.18	6.28	6.90	1,552
57（1982）	118,518	27,315（23.05）	79,976（67.48）	11,227（9.47）	12.82	6.37	6.46	1,520
58（1983）	119,253	26,938（22.59）	80,792（67.75）	11,523（9.66）	12.54	6.47	6.07	1,496
59（1984）	119,952	26,514（22.10）	81,656（68.07）	11,782（9.82）	12.33	6.57	5.75	1,479
60（1985）	120,620	26,056（21.60）	82,366（68.29）	12,198（10.11）	12.18	6.70	5.48	1,469
61（1986）	121,264	25,562（21.08）	83,149（68.57）	12,554（10.35）	12.10	6.84	5.26	1,468
62（1987）	121,890	24,965（20.48）	83,999（68.91）	12,927（10.61）	12.08	6.98	5.10	1,473
63（1988）	122,505	24,387（19.91）	84,794（69.22）	13,324（10.88）	12.12	7.13	5.00	1,485
64（1989）	123,114	23,824（19.35）	85,537（69.48）	13,753（11.17）	12.21	7.27	4.94	1,503
65（1990）	123,722	23,400（18.91）	86,032（69.54）	14,290（11.55）	12.34	7.43	4.91	1,527
66（1991）	124,336	23,104（18.58）	86,368（69.46）	14,864（11.96）	12.54	7.59	4.95	1,559
67（1992）	124,961	22,911（18.33）	86,634（69.33）	15,416（12.34）	12.78	7.76	5.02	1,598
68（1993）	125,603	22,812（18.16）	86,818（69.12）	15,973（12.72）	13.07	7.93	5.14	1,642
69（1994）	126,264	22,821（18.07）	86,893（68.82）	16,550（13.11）	13.39	8.11	5.28	1,690
70（1995）	126,946	22,967（18.09）	86,897（68.45）	17,082（13.46）	13.69	8.28	5.41	1,738
71（1996）	127,646	23,181（18.16）	86,799（68.00）	17,666（13.84）	13.98	8.46	5.51	1,784
72（1997）	128,359	23,469（18.28）	86,640（67.50）	18,250（14.22）	14.21	8.64	5.58	1,824
73（1998）	129,075	23,813（18.45）	86,433（66.96）	18,830（14.59）	14.36	8.81	5.55	1,853
74（1999）	129,782	24,194（18.64）	86,217（66.43）	19,371（14.93）	14.41	8.98	5.42	1,870
75（2000）	130,467	24,592（18.85）	85,932（65.86）	19,943（15.29）	14.35	9.16	5.20	1,872
80（2005）	133,158	26,208（19.68）	84,723（63.63）	22,228（16.69）	13.09	10.11	2.99	1,743
85（2010）	134,302	26,330（19.61）	83,494（62.17）	24,478（18.23）	11.98	11.18	0.80	1,609
90（2015）	134,442	25,203（18.75）	81,928（60.94）	27,311（20.31）	12.12	12.17	-0.05	1,629
95（2020）	134,506	24,680（18.35）	81,877（60.87）	27,950（20.78）	13.28	12.93	0.35	1,786
100（2025）	135,035	25,784（19.09）	82,172（60.85）	27,079（20.05）	14.41	13.35	1.06	1,945
105（2030）	135,696	27,515（20.28）	81,829（60.30）	26,351（19.42）	14.28	13.47	0.81	1,938
110（2035）	135,914	28,355（20.86）	81,361（59.86）	26,198（19.28）	13.45	13.46	-0.01	1,828
115（2040）	135,913	27,923（20.55）	80,871（59.50）	27,118（19.95）	13.15	13.02	0.13	1,787
120（2045）	136,289	27,291（20.02）	82,096（60.24）	26,902（19.74）	13.78	12.82	0.96	1,878
125（2050）	137,334	27,704（20.17）	83,857（61.06）	25,773（18.77）	14.75	12.80	1.96	2,026
130（2055）	138,892	29,078（20.94）	85,247（61.38）	24,568（17.69）	15.05	12.68	2.37	2,091
135（2060）	140,493	30,270（21.55）	86,122（61.30）	24,102（17.15）	14.52	12.31	2.21	2,040
140（2065）	142,018	30,476（21.46）	86,793（61.11）	24,749（17.43）	13.95	11.79	2.16	1,981
145（2070）	143,669	30,074（20.93）	88,123（61.34）	25,472（17.73）	14.03	11.54	2.49	2,015
150（2075）	145,701	30,109（20.66）	90,093（61.83）	25,499（17.50）	14.62	11.55	3.07	2,130
155（2080）	148,121	31,037（20.95）	91,928（62.06）	25,156（16.98）	...	...	...	...

* CBR：普通出生率（人口千人当たりの出生率） CDR：普通死亡率（人口千人当たりの死亡率）
 NIR：自然増加率（CBR－CDR） 昭和50年以前の総人口には年齢不詳を含む。

表 5 総人口および主要人口指標の推移—低位推計値

実数の単位 1,000人

年次	総人口	年齢3区分別人口（割合％）			普通人口動態率（‰）*			出生数
		0～14歳	15～64歳	65歳以上	CBR	CDR	NIR	
昭和25年（1950）	84,115	29,786（35.41）	50,168（59.64）	4,155（4.94）	28.10	10.88	17.22	2,338
30（1955）	90,077	30,123（33.44）	55,167（61.24）	4,786（5.31）	19.39	7.77	11.62	1,731
35（1960）	94,302	28,434（30.15）	60,469（64.12）	5,398（5.72）	17.19	7.56	9.63	1,606
40（1965）	99,209	25,529（25.73）	67,444（67.98）	6,236（6.28）	18.56	7.13	11.43	1,824
45（1970）	104,665	25,153（24.03）	72,119（68.90）	7,393（7.06）	18.76	6.91	11.85	1,934
実績 50（1975）	111,940	27,221（24.32）	75,807（67.72）	8,865（7.92）	17.09	6.31	10.78	1,901
績 55（1980）	116,916	27,547（23.56）	78,791（67.39）	10,578（9.05）	13.57	6.22	7.35	1,577
推計 56（1981）	117,700	27,605（23.45）	79,177（67.27）	10,917（9.28）	12.72	6.28	6.44	1,497
57（1982）	118,407	27,204（22.97）	79,976（67.54）	11,227（9.48）	12.20	6.37	5.83	1,444
58（1983）	119,051	26,736（22.46）	80,792（67.86）	11,523（9.68）	11.76	6.47	5.29	1,400
59（1984）	119,642	26,204（21.90）	81,656（68.25）	11,782（9.85）	11.41	6.59	4.82	1,365
60（1985）	120,184	25,620（21.32）	82,366（68.53）	12,198（10.15）	11.13	6.72	4.41	1,338
61（1986）	120,685	24,982（20.70）	83,149（68.90）	12,554（10.40）	10.93	6.86	4.06	1,319
62（1987）	121,149	24,224（20.00）	83,999（69.33）	12,927（10.67）	10.78	7.02	3.77	1,306
63（1988）	121,585	23,467（19.30）	84,794（69.74）	13,324（10.96）	10.70	7.17	3.53	1,301
64（1989）	122,005	22,715（18.62）	85,537（70.11）	13,753（11.27）	10.74	7.33	3.41	1,311
65（1990）	122,415	22,093（18.05）	86,032（70.28）	14,290（11.67）	10.82	7.49	3.33	1,325
66（1991）	122,821	21,588（17.58）	86,368（70.32）	14,864（12.10）	10.96	7.64	3.29	1,346
67（1992）	123,226	21,176（17.18）	86,634（70.30）	15,416（12.51）	11.15	7.86	3.29	1,374
68（1993）	123,636	20,846（16.86）	86,818（70.22）	15,973（12.92）	11.37	8.05	3.32	1,405
69（1994）	124,053	20,610（16.61）	86,893（70.05）	16,550（13.34）	11.61	8.24	3.37	1,440
70（1995）	124,478	20,499（16.47）	86,897（69.81）	17,082（13.72）	11.86	8.43	3.42	1,476
71（1996）	124,909	20,486（16.40）	86,758（69.46）	17,666（14.14）	12.09	8.63	3.46	1,510
72（1997）	125,343	20,563（16.41）	86,529（69.03）	18,250（14.56）	12.28	8.82	3.46	1,540
73（1998）	125,771	20,708（16.47）	86,233（68.56）	18,830（14.97）	12.41	9.02	3.39	1,560
74（1999）	126,182	20,902（16.57）	85,909（68.08）	19,371（15.35）	12.44	9.22	3.22	1,570
75（2000）	126,566	21,125（16.69）	85,498（67.55）	19,943（15.76）	12.39	9.41	2.97	1,568
80（2005）	127,700	22,051（17.27）	83,422（65.33）	22,228（17.41）	11.10	10.51	0.59	1,418
85（2010）	127,067	21,551（16.96）	81,039（63.78）	24,478（19.26）	9.55	11.78	-2.23	1,214
90（2015）	124,970	19,609（15.69）	78,049（62.45）	27,311（21.85）	9.01	13.04	-4.03	1,126
95（2020）	122,248	17,846（14.60）	76,453（62.54）	27,950（22.86）	9.59	14.15	-4.56	1,173
100（2025）	119,505	17,437（14.59）	74,989（62.75）	27,079（22.66）	10.43	14.99	-4.56	1,247
105（2030）	116,640	17,856（15.31）	72,433（62.10）	26,351（22.59）	10.39	15.55	-5.16	1,211
110（2035）	113,275	17,858（15.77）	69,219（61.11）	26,198（23.13）	9.58	15.98	-6.41	1,085
115（2040）	109,521	16,886（15.42）	65,516（59.82）	27,118（24.76）	8.96	15.92	-6.95	982
120（2045）	105,741	15,535（14.69）	63,303（59.87）	26,902（25.44）	9.12	16.18	-7.06	965
125（2050）	102,121	14,738（14.43）	61,974（60.69）	25,409（24.88）	9.80	16.70	-6.90	1,000
130（2055）	98,679	14,667（14.86）	60,494（61.30）	23,518（23.83）	10.18	17.08	-6.90	1,004
135（2060）	95,278	14,707（15.44）	58,345（61.24）	22,225（23.33）	9.88	16.98	-7.11	941
140（2065）	91,944	14,265（15.52）	55,696（60.58）	21,983（23.91）	9.34	16.48	-7.14	859
145（2070）	88,753	13,383（15.08）	53,427（60.20）	21,943（24.72）	9.18	16.19	-7.01	815
150（2075）	85,748	12,588（14.68）	51,894（60.52）	21,265（24.80）	9.53	16.34	-6.82	817
155（2080）	82,903	12,233（14.76）	50,617（61.06）	20,053（24.19）	...	...	...	...

* CBR：普通出生率（人口千人当たり出生率） CDR：普通死亡率（人口千人当たりの死亡率）
NIR：自然増加率（CBR－CDR） 昭和50年以前の総人口には年齢不詳を含む。

表 6 総人口および主要人口指標の推移—昭和55年出生力一定推計値

実数の単位 1,000人

年次	総人口	年齢3区分別人口(割合%)			普通人口動態率(%)*			出生数
		0～14歳	15～64歳	65歳以上	CBR	CDR	NIR	
昭和25年(1950)	84,115	29,786(35.41)	50,168(59.64)	4,155(4.94)	28.10	10.88	17.22	2,338
30(1955)	90,077	30,123(33.44)	55,167(61.24)	4,786(5.31)	19.39	7.77	11.62	1,731
35(1960)	94,302	28,434(30.15)	60,469(64.12)	5,398(5.72)	17.19	7.56	9.63	1,606
40(1965)	99,209	25,529(25.73)	67,444(67.98)	6,236(6.28)	18.56	7.13	11.43	1,824
45(1970)	104,665	25,153(24.03)	72,119(68.90)	7,393(7.06)	18.76	6.91	11.85	1,934
実績 50(1975)	111,940	27,221(24.32)	75,807(67.72)	8,865(7.92)	17.09	6.31	10.78	1,901
55(1980)	116,916	27,547(23.56)	78,791(67.39)	10,578(9.05)	13.57	6.22	7.35	1,577
推計 56(1981)	117,731	27,637(23.47)	79,177(67.25)	10,917(9.27)	13.07	6.28	6.79	1,539
57(1982)	118,487	27,284(23.03)	79,976(67.50)	11,227(9.48)	12.62	6.37	6.25	1,495
58(1983)	119,188	26,873(22.55)	80,792(67.78)	11,523(9.67)	12.24	6.47	5.78	1,459
59(1984)	119,842	26,404(22.03)	81,656(68.14)	11,782(9.83)	11.94	6.58	5.36	1,431
60(1985)	120,455	25,891(21.49)	82,366(68.38)	12,198(10.13)	11.71	6.71	5.00	1,410
61(1986)	121,031	25,329(20.93)	83,149(68.70)	12,554(10.37)	11.54	6.85	4.69	1,397
62(1987)	121,578	24,653(20.28)	83,999(69.09)	12,927(10.63)	11.43	7.00	4.44	1,390
63(1988)	122,101	23,983(19.64)	84,794(69.45)	13,324(10.91)	11.38	7.15	4.24	1,390
64(1989)	122,607	23,316(19.02)	85,537(69.77)	13,753(11.22)	11.38	7.30	4.09	1,396
65(1990)	123,098	22,776(18.50)	86,032(69.89)	14,290(11.61)	11.42	7.46	3.96	1,406
66(1991)	123,581	22,348(18.08)	86,368(69.89)	14,864(12.03)	11.52	7.63	3.89	1,424
67(1992)	124,059	22,009(17.74)	86,634(69.83)	15,416(12.43)	11.66	7.81	3.85	1,446
68(1993)	124,539	21,748(17.46)	86,818(69.71)	15,973(12.83)	11.84	7.99	3.85	1,474
69(1994)	125,022	21,578(17.26)	86,893(69.50)	16,550(13.24)	12.05	8.18	3.87	1,507
70(1995)	125,509	21,530(17.15)	86,897(69.24)	17,082(13.61)	12.25	8.37	3.89	1,538
71(1996)	125,998	21,543(17.10)	86,789(68.88)	17,666(14.02)	12.45	8.56	3.89	1,568
72(1997)	126,487	21,627(17.10)	86,609(68.47)	18,250(14.43)	12.60	8.75	3.86	1,594
73(1998)	126,966	21,767(17.14)	86,369(68.03)	18,830(14.83)	12.69	8.94	3.75	1,611
74(1999)	127,425	21,945(17.22)	86,109(67.58)	19,371(15.20)	12.69	9.13	3.56	1,617
75(2000)	127,853	22,142(17.32)	85,767(67.08)	19,943(15.60)	12.60	9.32	3.28	1,611
80(2005)	129,170	22,841(17.68)	84,101(65.11)	22,228(17.21)	11.26	10.40	0.86	1,454
85(2010)	128,767	22,225(17.26)	82,064(63.73)	24,478(19.01)	9.88	11.63	-1.76	1,272
90(2015)	127,004	20,365(16.03)	79,327(62.46)	27,311(21.50)	9.44	12.84	-3.40	1,199
95(2020)	124,633	18,772(15.06)	77,912(62.51)	27,950(22.43)	9.96	13.90	-3.94	1,241
100(2025)	122,189	18,436(15.09)	76,674(62.75)	27,079(22.16)	10.66	14.68	-4.01	1,303
105(2030)	119,570	18,774(15.70)	74,445(62.26)	26,351(22.04)	10.54	15.19	-4.65	1,261
110(2035)	116,443	18,674(16.04)	71,572(61.45)	26,198(22.50)	9.78	15.58	-5.80	1,139
115(2040)	112,966	17,697(15.67)	68,151(60.33)	27,118(24.01)	9.26	15.49	-6.22	1,047
120(2045)	109,483	16,421(15.00)	66,160(60.43)	26,902(24.57)	9.42	15.71	-6.29	1,031
125(2050)	106,129	15,687(14.78)	64,807(61.06)	25,634(24.15)	10.00	16.19	-6.19	1,062
130(2055)	102,893	15,603(15.16)	63,229(61.45)	24,061(23.38)	10.30	16.57	-6.27	1,060
135(2060)	99,641	15,585(15.64)	61,074(61.29)	22,982(23.06)	10.00	16.54	-6.54	997
140(2065)	96,413	15,112(15.67)	58,486(60.66)	22,815(23.66)	9.53	16.15	-6.62	919
145(2070)	93,286	14,249(15.27)	56,307(60.36)	22,730(24.37)	9.40	15.98	-6.58	877
150(2075)	90,308	13,489(14.94)	54,805(60.69)	22,014(24.38)	9.72	16.16	-6.43	878
155(2080)	87,474	13,140(15.02)	53,480(61.14)	20,854(23.84)	...	...	...	...

* CBR: 普通出生率(人口千人当たりの出生率) CDR: 普通死亡率(人口千人当たりの死亡率)
 NIR: 自然増加率(CBR-CDR) 昭和50年以前の総人口には年齢不詳を含む。

単位:千万人

図 3 総人口の推移—各推計値

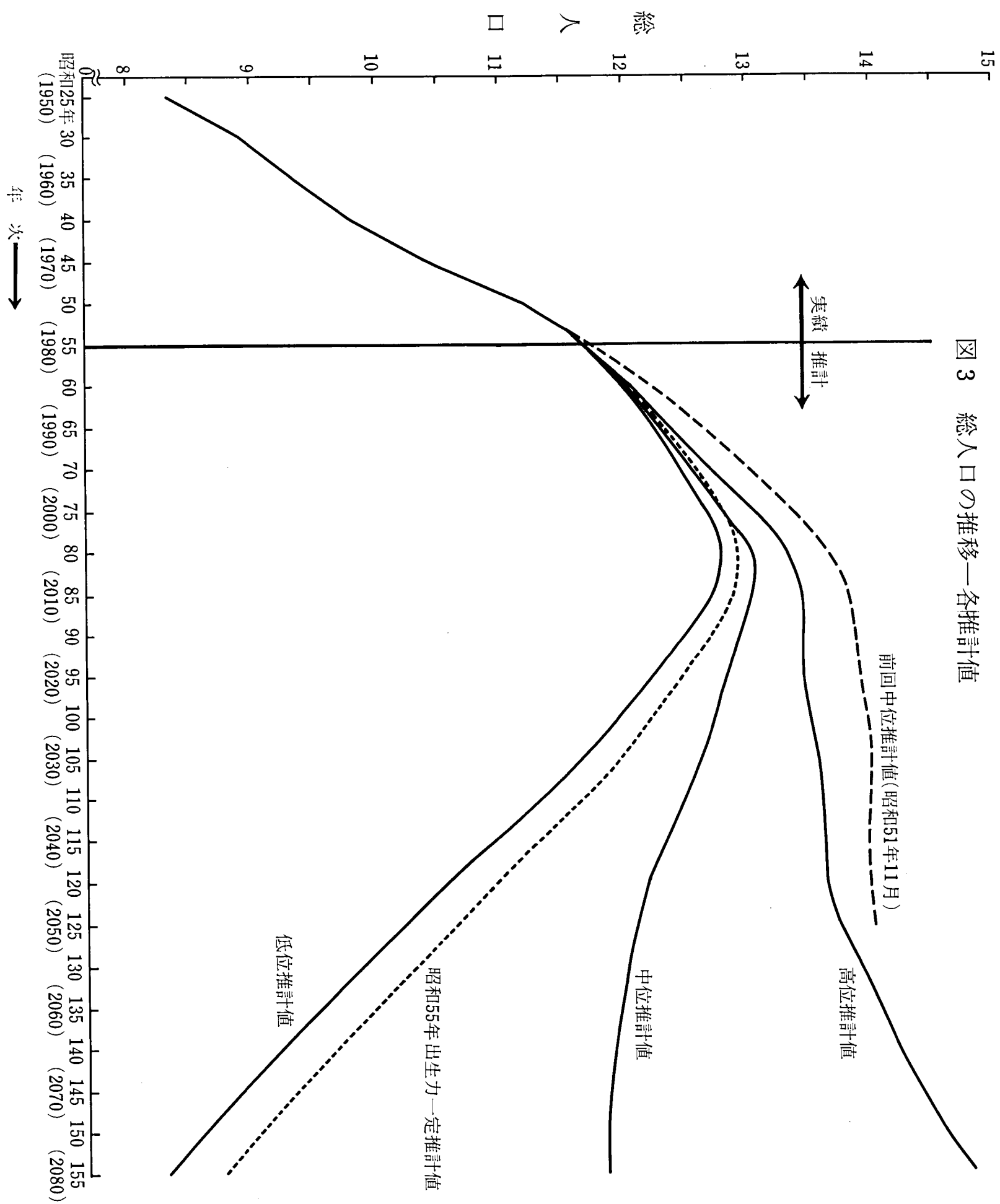


図 4 普通出生率、普通死亡率および自然増加率の推移——中位推計値

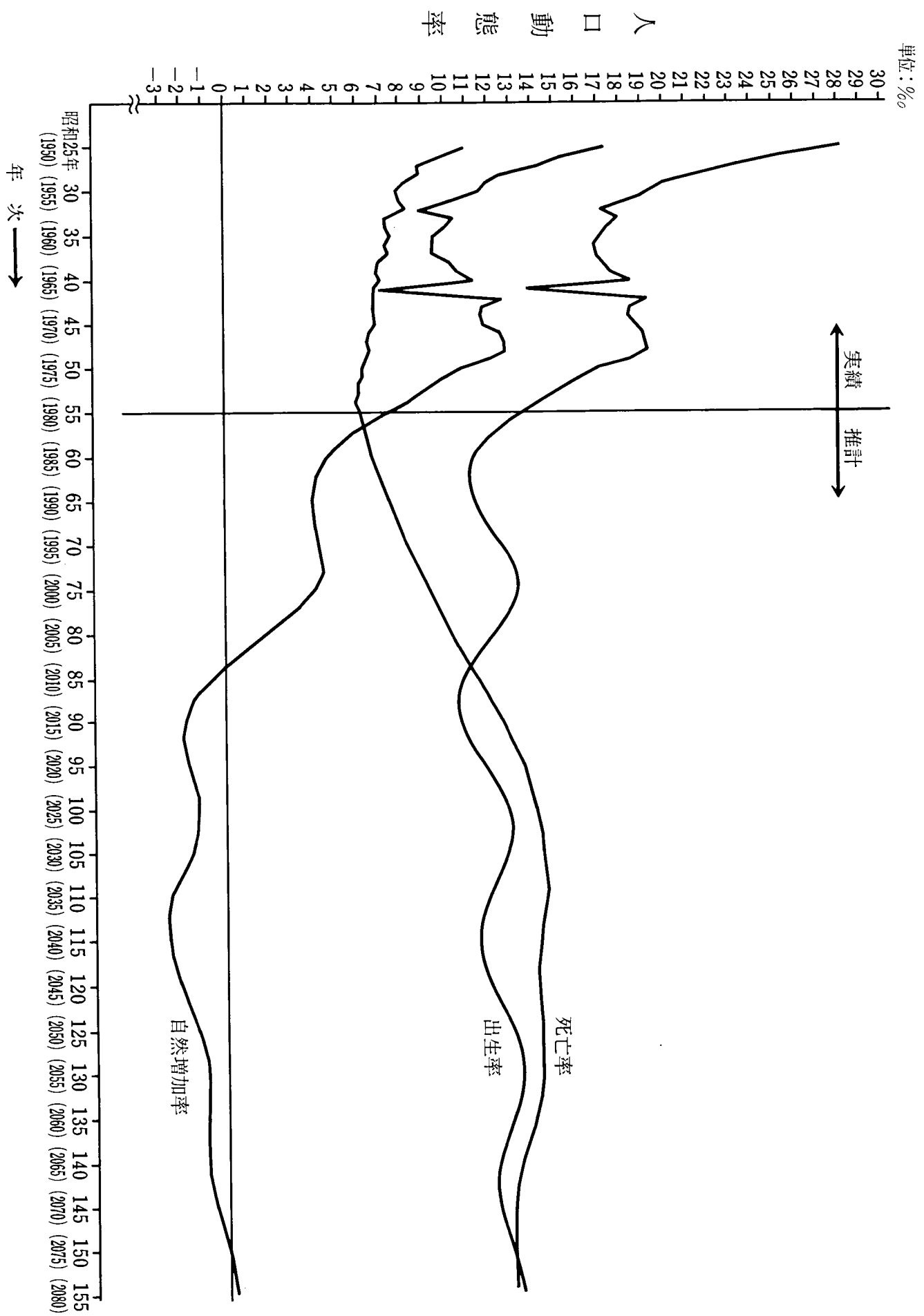


表 7 男女，年齢 5 歳階級および 3 区分別人口の変化—中位推計値

年 齢 階 級	人 口 (1,000 人)			年 齢 構 成 比 率 (%)		
	総 数	男	女	総 数	男	女
(1) 昭 和 55 年 (1980)						
総 数	116,916	57,490	59,426	100.00	49.17	50.83
0 ~ 4	8,565	4,378	4,187	7.33	3.74	3.58
5 ~ 9	10,035	5,136	4,899	8.58	4.39	4.19
10 ~ 14	8,947	4,583	4,364	7.65	3.92	3.73
15 ~ 19	8,231	4,226	4,006	7.04	3.61	3.43
20 ~ 24	7,811	3,930	3,882	6.68	3.36	3.32
25 ~ 29	9,073	4,566	4,507	7.76	3.91	3.86
30 ~ 34	10,786	5,424	5,362	9.23	4.64	4.59
35 ~ 39	9,215	4,602	4,613	7.88	3.94	3.95
40 ~ 44	8,322	4,144	4,177	7.12	3.54	3.57
45 ~ 49	8,093	4,053	4,040	6.92	3.47	3.46
50 ~ 54	7,158	3,511	3,647	6.12	3.00	3.12
55 ~ 59	5,633	2,518	3,115	4.82	2.15	2.66
60 ~ 64	4,469	1,953	2,517	3.82	1.67	2.15
65 ~ 69	3,938	1,728	2,210	3.37	1.48	1.89
70 ~ 74	2,995	1,306	1,689	2.56	1.12	1.44
75 ~ 79	2,024	846	1,178	1.73	0.72	1.01
80 ~ 84	1,088	414	674	0.93	0.35	0.58
85 ~	533	173	360	0.46	0.15	0.31
0 ~ 14	27,547	14,097	13,449	23.56	12.06	11.50
15 ~ 59	74,322	36,974	37,349	63.57	31.62	31.94
60 ~	15,048	6,419	8,628	12.87	5.49	7.38
15 ~ 64	78,791	38,926	39,865	67.39	33.29	34.10
65 ~	10,578	4,467	6,112	9.05	3.82	5.23
(2) 昭 和 60 年 (1985)						
総 数	120,301	59,161	61,140	100.00	49.18	50.82
0 ~ 4	7,170	3,687	3,484	5.96	3.06	2.90
5 ~ 9	8,542	4,365	4,177	7.10	3.63	3.47
10 ~ 14	10,025	5,130	4,895	8.33	4.26	4.07
15 ~ 19	8,934	4,574	4,360	7.43	3.80	3.62
20 ~ 24	8,208	4,209	3,999	6.82	3.50	3.32
25 ~ 29	7,786	3,912	3,873	6.47	3.25	3.22
30 ~ 34	9,039	4,543	4,495	7.51	3.78	3.74
35 ~ 39	10,734	5,392	5,342	8.92	4.48	4.44
40 ~ 44	9,144	4,556	4,588	7.60	3.79	3.81
45 ~ 49	8,219	4,076	4,143	6.83	3.39	3.44
50 ~ 54	7,941	3,951	3,989	6.60	3.28	3.32
55 ~ 59	6,960	3,382	3,578	5.79	2.81	2.97
60 ~ 64	5,402	2,379	3,023	4.49	1.98	2.51
65 ~ 69	4,163	1,774	2,389	3.46	1.47	1.99
70 ~ 74	3,465	1,460	2,005	2.88	1.21	1.67
75 ~ 79	2,404	986	1,418	2.00	0.82	1.18
80 ~ 84	1,398	535	863	1.16	0.44	0.72
85 ~	769	251	517	0.64	0.21	0.43
0 ~ 14	25,737	13,181	12,556	21.39	10.96	10.44
15 ~ 59	76,964	38,596	38,369	63.98	32.08	31.89
60 ~	17,600	7,385	10,215	14.63	6.14	8.49
15 ~ 64	82,366	40,975	41,392	68.47	34.06	34.41
65 ~	12,198	5,006	7,192	10.14	4.16	5.98

図 5 男女年齢 5 歳階級別人口ピラミッドの比較——中位推計値
昭和 55 年 (1980) と 昭和 75 年 (2000)

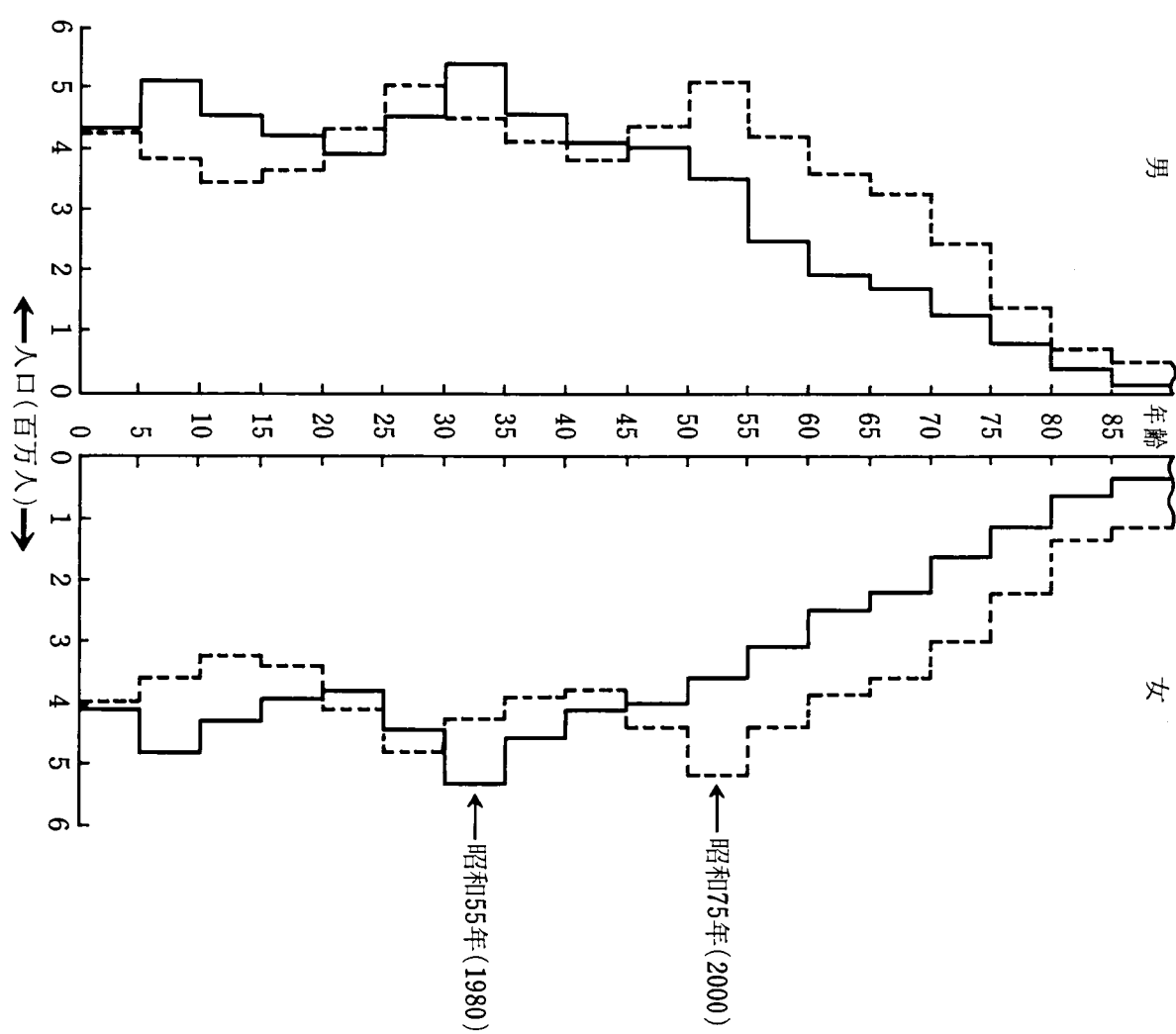


図 6 男女年齢 5 歳階級別人口ピラミッドの比較——中位推計値
昭和 55 年 (1980) と 昭和 100 年 (2025)

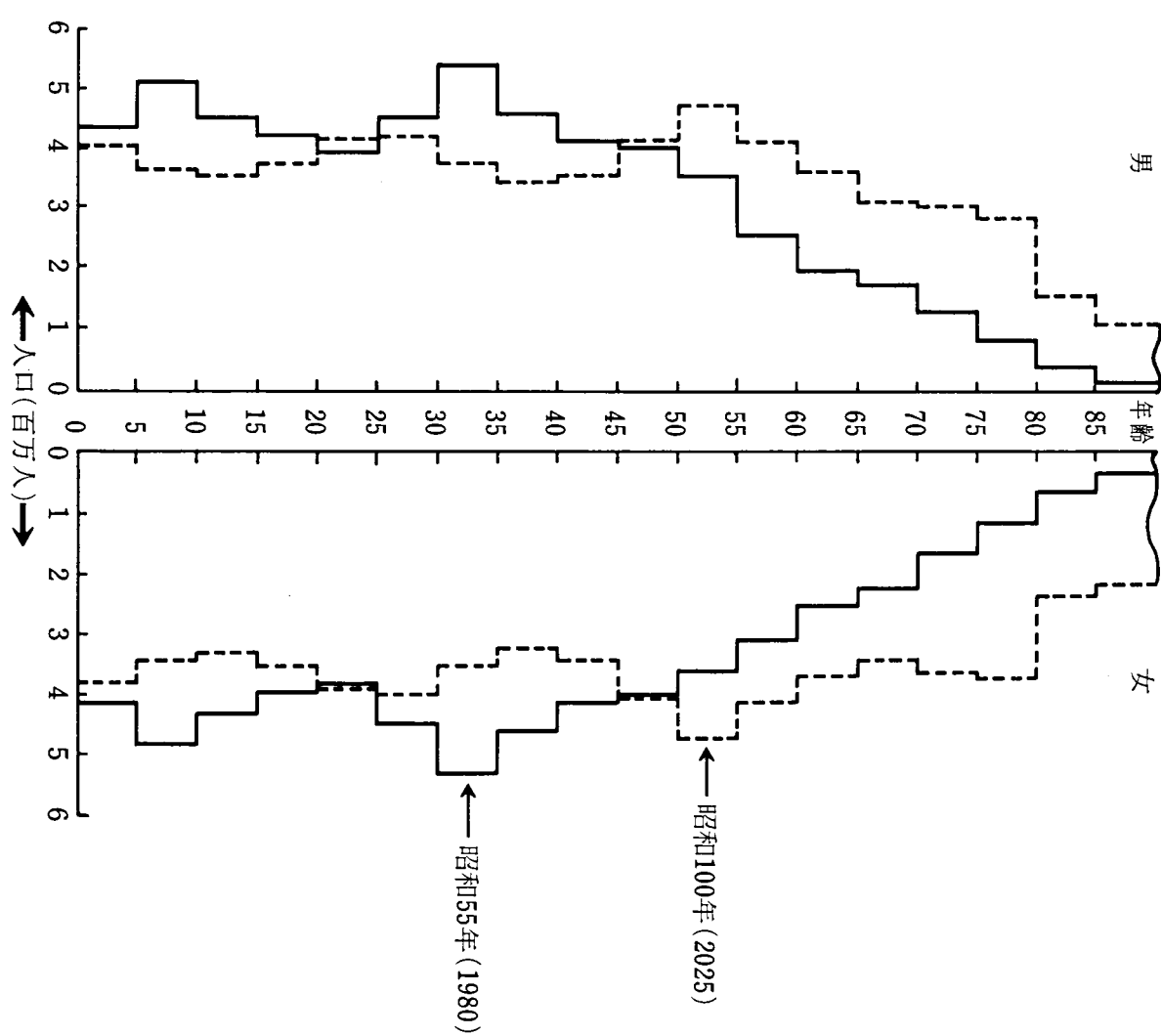


表 8 從 属 人 口 指 数 — 中 位 推 計 值

(単位：%)

年	次	年少人口 指 数	老年人口 指 数	從属人口 指 数	老 年 化 指 数
昭 和 55 年	(1980)	34.96	13.43	48.39	38.40
56	(1981)	34.89	13.79	48.68	39.52
57	(1982)	34.07	14.04	48.11	41.20
58	(1983)	33.18	14.26	47.44	42.99
59	(1984)	32.20	14.43	46.63	44.80
60	(1985)	31.25	14.81	46.06	47.39
61	(1986)	30.23	15.10	45.33	49.94
62	(1987)	29.08	15.39	44.47	52.92
63	(1988)	27.99	15.71	43.71	56.13
64	(1989)	26.96	16.08	43.03	59.65
65	(1990)	26.17	16.61	42.78	63.48
66	(1991)	25.58	17.21	42.79	67.29
67	(1992)	25.13	17.79	42.92	70.82
68	(1993)	24.80	18.40	43.20	74.17
69	(1994)	24.63	19.05	43.68	77.32
70	(1995)	24.63	19.66	44.29	79.80
71	(1996)	24.76	20.36	45.12	82.20
72	(1997)	25.03	21.08	46.11	84.23
73	(1998)	25.40	21.82	47.22	85.91
74	(1999)	25.84	22.52	48.37	87.16
75	(2000)	26.35	23.29	49.65	88.40
80	(2005)	28.56	26.51	55.07	92.84
85	(2010)	29.12	29.87	58.99	102.60
90	(2015)	28.18	34.31	62.49	121.78
95	(2020)	27.20	35.49	62.69	130.49
100	(2025)	28.05	34.64	62.69	123.48
105	(2030)	30.20	34.33	64.53	113.67
110	(2035)	31.60	34.91	66.51	110.49
115	(2040)	31.51	37.09	68.59	117.71
120	(2045)	30.27	36.93	67.20	121.99
125	(2050)	29.86	34.76	64.62	116.42
130	(2055)	30.77	32.39	63.16	105.27
135	(2060)	31.87	31.27	63.14	98.10
140	(2065)	32.02	31.82	63.84	99.36
145	(2070)	31.13	32.41	63.55	104.12
150	(2075)	30.33	31.85	62.18	105.02
155	(2080)	30.51	30.69	61.20	100.59

$$\text{年少(從属)人口指数} = \frac{\text{15歳未満人口}}{\text{15} \sim \text{64歳人口}} \times 100 \quad \text{老年(從属)人口指数} = \frac{\text{65歳以上人口}}{\text{15} \sim \text{64歳人口}} \times 100$$

$$\text{從属人口指数(総数)} = \frac{\text{15歳未満人口} + \text{65歳以上人口}}{\text{15} \sim \text{64歳人口}} \times 100 = \text{年少人口指数} + \text{老年人口指数}$$

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{65歳以上人口}}{\text{15歳未満人口}} \times 100$$

参考表 1 主要諸外国の人口の年齢構成：最近の調査年次人口

(単位：％)

国名 (年次)	年 齢 別 割 合			年少人口 指 数	老年人口 指 数	従属人口 指 数	老 年 化 指 数
	0～14歳	15～64歳	65歳以上				
日 本 (1980)	23.5	67.4	9.0	35.0	13.4	48.4	38.4
オーストラリア (1977)	26.6	64.4	9.0	41.3	14.1	55.4	34.0
ブラジル (1977)	41.1	55.7	3.2	73.8	5.8	79.6	7.9
カナダ (1977)	24.9	66.2	8.9	37.7	13.4	51.1	35.6
フランス (1978)	23.1	63.1	13.8	36.6	21.9	58.4	59.8
ドイツ連邦共和国 (1978)	19.6	65.1	15.3	30.1	23.5	53.5	78.1
イ ン ド (1977)	40.8	55.9	3.3	72.9	5.9	78.8	8.1
イ タ リ ア (1977)	23.7	63.8	12.5	37.1	19.7	56.7	53.0
スウェーデン (1976)	20.6	64.0	15.3	32.2	24.0	56.2	74.4
イ ギ リ ス (1978)	22.0	63.4	14.6	34.7	22.9	57.6	66.1
アメリカ合衆国 (1978)	23.3	65.7	11.0	35.4	16.7	52.1	47.3

資料：ドイツ連邦共和国；Statistisches Bundesamt “Statistisches Jahrbuch 1980”。

イギリス；Central Statistical Office “Annual Abstract of Statistics 1980 Edition”。

アメリカ合衆国；U. S. Department of Commerce “Current Population Reports Series P-25, No. 800”。

そのほかは United Nations “Demographic Yearbook” 1978 年版による。

参考表 2 主要諸外国の人口の年齢構成：2025年推計人口

(単位：％)

国名	年 齢 別 割 合			年少人口 指 数	老年人口 指 数	従属人口 指 数	老 年 化 指 数
	0～14歳	15～64歳	65歳以上				
日 本	17.2	61.5	21.3	28.1	34.6	62.7	123.5
オーストラリア	20.1	64.2	15.7	31.4	24.5	55.8	78.1
ブラジル	30.4	62.3	7.3	48.8	11.7	60.6	24.0
カナダ	17.6	65.7	16.7	26.9	25.4	52.3	94.9
フランス	18.4	63.1	18.6	29.1	29.5	58.6	101.1
ドイツ連邦共和国	17.6	62.5	20.0	28.2	32.0	60.1	113.6
イ ン ド	23.1	69.4	7.5	33.2	10.8	44.0	32.5
イ タ リ ア	16.5	62.9	20.7	26.2	32.9	59.0	125.5
ルクセンブルグ	16.4	61.1	22.5	26.9	36.8	63.7	137.2
スウェーデン	16.8	62.3	20.9	26.9	33.6	60.6	124.4
ス イ ス	16.7	61.3	22.0	27.2	35.8	63.0	131.7
イ ギ リ ス	17.6	63.8	18.6	27.6	29.2	56.8	105.7
アメリカ合衆国	20.7	63.5	15.8	32.6	25.0	57.6	76.3

資料：国連人口部 1980 年世界人口推計資料による。